

テーマ「一家の主」

「仏壇」と「お内仏」という言葉があります。

「仏壇」はお店に展示されている、いわば「飾り物」です。一方、「仏壇」を自宅に安置しお給仕をしていく中で「お内仏」となります。

「お内仏」というのは「我が内なる仏」という意味合いを持っています。自宅に安置した「お内仏」はもう「飾り物」ではないのです。

みなさんのご自宅にも「お内仏」があると思いますが、私達と「お内仏」は、一体どのような関係にあるのでしょうか。このことについて私の思うところを述べてみたいと思います。

一体、我が家の「主」は誰なのでしょう。朝から夜まで働いて、家族のために家を建てたお父さんでしょうか。また、毎日三食の食事を作り、家族を裏から支えるお母さんでしょうか。我が家の主はお爺さんお婆さんという方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、真宗門徒にとっての我が家の主というのは、実は「お内仏」の中にいらっしゃる「阿弥陀仏」という仏さまなのです。

「お内仏」のお給仕ということを知ったことがあると思います。「お給仕」ということも、少し乱暴に言うと「阿弥陀仏」が我が家の主であるから、毎日の「お給仕」を欠かさずするのです。

私達は家を建てた方を一家の主だと思いがちです。お父さんが建てたなら、一家の主はお父さんというべきでしょう。それはもっともなことですね。「お内仏」を購入されたのもお父さんとするならなおさらのことです。

しかし、真宗門徒の自覚においてはそうではないのです。一家の主である「阿弥陀仏」の家に住まわせていただいていると受け取ります。一家の主であるから「お内仏」は家の一番上座に安置しお給仕します。私の家に「お内仏」を安置しているのではないのです。私達の方こそ「仏の家」に同居させてもらっているから、毎日のお給仕をさせていただくのです。